



2025年1月27日

日本鉄道労働組合連合会

## 第23回青年女性役員研修会

### カスタマーハラスメント対策についてUAゼンセンの壮大な取り組みを学ぶ

JR連合は1月18日から19日にかけて、東京都内で「第23回青年女性役員研修会」を開催し、全国から集まった27名の青年・女性役員が受講した。

今回の研修会では、全国繊維化学食品流通サービス一般労働組合同盟（UAゼンセン）の協力のもと、21世紀の鉄道を考える議員フォーラムに所属する田村まみ参議院議員（UAゼンセン組織内議員）と交流を図るとともに、カスタマーハラスメント対策の取り組みを学んだ。

研修会の冒頭に駆け付けた田村まみ参議院議員は、参加者全員と交流したほか、自身が組合役員や政治家に身を投じた経緯を紹介するなど連帯のあいさつを受けた。

その後は、UAゼンセンの関口太一政策政治局副部長から「UAゼンセンが進めるカスタマーハラスメント対策について」と題した講義を受けた。

休憩室の愚痴から始まった悪質クレームへの対応について、労働組合が主体となり大規模なアンケート調査や他産別と連携しながら、政治や行政を巻き込んで取り組んだ結果、



田村まみのポーズで記念撮影



関口副部長

荻山会長

社会的な課題として認知され、法改正の動きが加速しているが、これまで10年に及ぶ期間を要してきたことに対して、参加者は驚きを隠せなかった。グループディスカッションでは、各自が体験したカスタハラ事例を共有し、対策を検討するなど活発な意見交換が行われた。

2日目は、荻山市朗会長が「労働組合を活かして持続的に明るい次代を築こう！皆さんへの期待」と題した講義を行い、国鉄改革からの歴史を改めて振り返るとともに、労働組合の必要性や重要性に対するJR連合の考えや取り組みを共有した。また、2025年1月28日には国鉄の存続期間とJRの存続期間が並ぶことを踏まえ、世の中から取り残されないよう時代の変化に対応し続けること、そのために労働組合の役割は極めて重要になることを訴え、次代のJR連合を担う参加者に主体性をもって生き活きと活動してほしいとメッセージが送られた。

2日目のグループディスカッションは、「組織拡大に向けた取り組み」「女性役員の育成に向けた取り組み」の課題に対して、青年・女性委員会として何ができるのか議論した。各グループの発表を受けて講評した政所大祐事務局長は、若い時代に培った人脈を大切に、労働組合を積極的に活用して何ができるかを考えて活動してほしいとエールを送った。

2日間の研修を通して、参加者は多くの学びを得る機会となった。各単組に持ち帰り、それぞれの活動に反映することを期待している。

